2027 年度

社会医療法人愛仁会　高槻病院

麻酔科専門医研修プログラム



TAKA TSUKI General Hospital

社会医療法人愛仁会高槻病院 麻酔科専門医研修プログラム

＜目次＞

1. 専門医制度の理念と専門医の使命・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
2. 専門研修プログラムの概要と特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
3. 専門研修プログラムの運営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
4. 研修施設の指導体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
5. 専攻医の採用と問い合わせ先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について・１１
7. 専門研修方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス・・・・・・・・・・１２
9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
10. 専門研修プログラムの修了要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
11. 専攻医による専門研修指導医及び研修プログラムに対する評価・・・・・・１３
12. 専門研修の休止・中断,研修プログラムの移動・・・・・・・・・・・・・・・１４
13. 地域医療への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５

社会医療法人愛仁会高槻病院麻酔科専門医研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専門研修基幹施設である社会医療法人愛仁会高槻病院を軸に専門研修連携施設の社会医療法人愛仁会千船病院，社会医療法人愛仁会明石医療センター，社会医療法人愛仁会井上病院，神戸大学医学部附属病院，大阪市立総合医療センター，兵庫県立こども病院，大阪医科薬科大学病院，亀田総合病院，松本協立病院において研修を行うことにより，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

次にプログラムを構成する社会医療法人愛仁会の4施設（高槻病院・千船病院・明石医療センター・井上病院）に神戸大学医学部附属病院・大阪市立総合医療センター・兵庫県立こども病院・大阪医科薬科大学病院・亀田総合病院・松本協立病院を加えた10施設の特徴を順番に記す．

・専門研修基幹施設である社会医療法人愛仁会高槻病院は大阪府高槻市にある．市民病院がないこの地域の人々の医療ニーズに応えるため多数の診療科があり手術も多

く行われている．このため外科系各科の一般的な手術から特殊な手術まで，多種類の麻酔症例を学ぶことができる．救急搬送も多く受け入れており研修に必要な脳神経外科や心臓血管外科の手術も十分経験できる．周産期母子医療センター（NICU, MFICU）やPICUを備えているため産科や小児外科，小児脳神経外科の手術麻酔症例も多く存在する．また手術室に隣接してICUも備えておりICUやPICUで集中治療を学ぶことができる．

・専門研修連携施設の社会医療法人愛仁会千船病院は大阪市西淀川区にありこちらも周産期母子医療センターを備え，産科症例が多くハイリスク妊婦分娩や無痛分娩等の産科麻酔を学ぶことができる．また特殊なものとして高度肥満患者の腹腔鏡下肥満手術や低侵襲手術支援ロボットを使用した手術の麻酔を学ぶことができる．

・専門研修連携施設の社会医療法人愛仁会明石医療センターは兵庫県明石市にある．心臓血管外科症例が豊富であり集中して心臓血管麻酔を学ぶことができる．また胸部外科手術・帝王切開術ともに症例数が多くこれらも学ぶことができる．

・専門研修連携施設の社会医療法人愛仁会井上病院は大阪府吹田市にある．透析専門病院であるため透析患者の手術麻酔を多数経験できる．

・専門研修連携施設の神戸大学医学部附属病院は神戸市中央区にあり大学病院として高度専門・先進医療を行っており集中治療やペインクリニックを含め多種多様な症例を経験することができる．

・専門研修連携施設の大阪市立総合医療センターは大阪市都島区にあり高度先進医療・救急医療・小児医療・産科医療の拠点として地域の医療を支えており，一般的な手術も多いが泌尿器科，消化器外科，婦人科，呼吸器外科のロボット支援手術や，心臓血管外科のMICS（小切開心臓手術）やSHD（構造的心疾患）などの特殊な手術も行われている．また救命救急センターに搬送されてくる重症緊急患者の麻酔も多く，重症患者の術後管理なども集中治療研修で学ぶことができる．

・専門研修連携施設の兵庫県立こども病院は神戸市中央区にあり小児・周産期医療専門病院として多様な小児手術・検査・処置の麻酔や緊急帝王切開の麻酔などの一般病院では扱うことが少ない症例を経験することができる．

・専門研修連携施設の大阪医科薬科大学病院は専門研修基幹施設である社会医療法人愛仁会高槻病院と同じ大阪府高槻市にある大学病院であり，麻酔と集中治療やペインクリニックを含めた多くの症例を学ぶことができる．

・専門研修連携施設の亀田総合病院は千葉県鴨川市にある．年間1万例以上の幅広い手術症例を誇り米国式研修医システムで研修を受けながら様々な症例を学ぶことができる．

・専門研修連携施設の松本協立病院は長野県松本市のＪＲ松本駅の目の前にあり，心臓血管外科症例が多い施設なので集中して心臓血管麻酔を学ぶことができる．

本プログラムでは専攻医の研修状況などに合わせこれら10施設の特徴を生かしてローテーションを構築することにより必要な症例数を効率的に達成することが可能となる．

定期的な学習機会としては各病院において術前カンファレンスや症例検討会，勉強会，抄読会，関連診療科とのカンファレンスを行うのみならず社会医療法人愛仁会4施設合同の症例検討会などを行っている．その他にも各病院や社会医療法人愛仁会主催の各種研修会や他の研修会に参加し学ぶことができ，これらの研修や病院内シミュレーションセンター，インターネット等を使用し様々な学習を行うことが可能である．また学術活動として研修中はできるだけ日本麻酔科学会学術集会や支部学術集会に参加し筆頭者として学術集会で発表を行うか論文発表を行うことが求められる．

さらに本プログラムでは専門研修基幹病院・明石医療センター・松本協立病院等で心臓血管麻酔を学ぶ一環として本研修期間中に日本及び米国周術期経食道心エコー認定資格の取得を目指すことができる．

地域医療に関しては専門研修基幹病院・千船病院・明石医療センター・大阪市立総合医療センター・兵庫県立こども病院・亀田総合病院が地域医療支援病院であり，また専門研修連携施設に長野県の松本協立病院があり，本研修プログラムでは地域に根差したこれらの病院で研修することで，地域医療で求められる診療において必要とされる適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施を行う能力を身に着けることができる．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間の研修のうち専門研修基幹施設では最低2年間の研修を行う．
- 専門研修基幹施設では一般的な各科の麻酔，小児麻酔などを含む特殊な麻酔，PICU，ICU管理等を学ぶ．
- 一般的な麻酔以外に専門研修連携施設の社会医療法人愛仁会千船病院では産科麻酔・ICU管理等を，社会医療法人愛仁会明石医療センターでは心臓血管麻酔・胸部外科麻酔・ICU管理等を，社会医療法人愛仁会井上病院では透析患者の麻酔を，神戸大学医学部附属病院では高度専門医療・先進医療・ICU管理・ペインクリニック等を，大阪市立総合医療センターでは高度先進医療・救急医療・小児麻酔・産科麻酔・ICU管理等を，兵庫県立こども病院では小児麻酔・産科麻酔を，大阪医科薬科大学病院では高度先進医療・ICU管理・ペインクリニック等を，亀田総合病院では高度医療・ペインクリニック・集中治療・救急医療等を，松本協立病院では心臓血管麻酔等を学ぶ．
- 地域医療支援病院である専門研修基幹病院・千船病院・明石医療センター・大阪市立総合医療センター・兵庫県立こども病院・亀田総合病院，長野県の松本協立病院での研修を通し，地域医療における麻酔診療のニーズ及びその

実施について理解を深める.

- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	高槻	高槻or千船or明石or井上or神戸大or市総合orこどもor大医or亀田or松本	高槻or千船or明石or井上or神戸大or市総合orこどもor大医or亀田or松本	高槻or千船or明石or井上or神戸大or市総合orこどもor大医or亀田or松本
B	千船or明石or大医	高槻or千船or明石or井上or神戸大or市総合orこどもor大医or亀田or松本	高槻or千船or明石or井上or神戸大or市総合orこどもor大医or亀田or松本	高槻or千船or明石or井上or神戸大or市総合orこどもor大医or亀田or松本

高槻：社会医療法人愛仁会高槻病院，千船：社会医療法人愛仁会千船病院
明石：社会医療法人愛仁会明石医療センター，井上：社会医療法人愛仁会井上病院
神戸大：神戸大学医学部附属病院，市総合：大阪市立総合医療センター
こども：兵庫県立こども病院，大医：大阪医科薬科大学病院
亀田：亀田総合病院，松本：松本協立病院

週間予定表

高槻病院の例

	月	火	水	木	金
朝	術前カンファレンス（毎朝）・症例検討・勉強会・抄読会（2回/月）				
午前	手術室				
午後	手術室				

土曜・日曜・祝日は休み

・関連診療科との症例検討会
プレネイタルカンファレンス（2回/月），その他必要時あり

・病院が実施する研修として
月曜・木曜の昼に院内ランチタイムレクチャー
平日時間外や土曜に外部講師を招いた院内セミナー等（不定期）
院内医療倫理講習会（1回/年），院内医療安全管理研修会（2回/年），
院内感染対策研修会（2回/年）

・法人が実施する研修として
土曜に各種研修会（数回/年）あり
・その他
平日時間外や土曜・日曜・祝日に行われる各企業・団体主催の外部セミナー
WEBセミナー等研修に支障がない範囲で参加可能

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

社会医療法人愛仁会高槻病院

研修実施責任者：三宅隆一郎
専門研修指導医：三宅隆一郎（麻酔，心臓血管麻酔）
中島正順（麻酔）
土居ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）
入澤友美（麻酔，区域麻酔，集中治療）
西田隆也（麻酔，集中治療）
棚田和子（麻酔，心臓血管麻酔）

認定病院番号：829
特徴：大阪北摂地域で新生児から高齢者まで幅広い層に急性期医療を提供している．さらに総合周産期母子医療センター・MFICU（6床）・NICU（21床）・GCU（27床）を備えているため小児,産科手術も豊富である．またICU（8床）・PICU（8床）・SCU（6床）も備え救急搬送も多く受け入れており,心臓血管外科や脳神経外科等も含めた様々な手術の麻酔を研修することが可能である．

② 専門研修連携施設

社会医療法人愛仁会千船病院

研修実施責任者： 角　千里
専門研修指導医：角　千里（産科麻酔）
星野　和夫（麻酔）
嘉山　邦仁（麻酔）
大山　泰幸（麻酔）
大嶋　圭一（麻酔）
平塚　剛（麻酔）
菅野　睦（麻酔）
渡邉　真理子（麻酔）

戸尾　まゆみ（麻酔）

麻酔科認定病院番号：770
特徴：初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる308床の地域の総合病院ですので,大病院では経験しにくいcommon　diseaseの待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており,麻酔科医としての地力を鍛えることができます.2025年度麻酔科管理件数は4,473件/年,うち全身麻酔は2,233件/年でした.地域周産期母子医療センター,MFICU（6床）,NICU（15床）,ICU（4床）等を備え,24時間母体搬送に対応しています.分娩件数は2,600件/年と大阪府随一ですので,一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667件/年）や無痛分娩（1,100件/年）等の産科麻酔を経験することができます.無痛分娩は麻酔科医が24時間対応し,カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています.6ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています.また,減量・糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか,低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され,より低侵襲の手術も増加しています.

社会医療法人愛仁会明石医療センター

研修実施責任者：多田羅　康章
専門研修指導医：
岡本　健志（麻酔）
多田羅　康章（麻酔,集中治療）
藤島　佳世子（麻酔）
松尾　佳代子（麻酔,産科麻酔）
濱崎　豊（麻酔,集中治療,心臓血管麻酔）
山崎　翔太（麻酔,心臓血管麻酔）
米田　優美（麻酔）
西　進介（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1166
特徴：兵庫県東播磨医療圏で急性期医療を行っている.全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどを併用した管理や脊髄クモ膜下麻酔を積極的に行い,区域麻酔の技術習得を目指します.また,心臓大血管外科症例を通して JB-POT ならびに米国周術期経食道心エコー資格の取得や,集中治療・産科麻酔（labor analgesia）領域の研修も可能です.

神戸大学医学部附属病院

施設責任者：小幡　典彦

専門研修指導医：

小幡　典彦（麻酔）
野村　有紀（麻酔, ペインクリニック）
大井　まゆ（麻酔, 小児）
巻野　将平（麻酔, 集中治療）
法華　真衣（麻酔, 心臓血管）
末原　知美（麻酔）
牛尾　将洋（麻酔, 集中治療）
上野　喬平（麻酔, ペインクリニック）
西村　太一（麻酔, 集中治療）
岡田　卓也（麻酔, 心臓血管）
藤本　大地（麻酔, 集中治療）
武部　佐和子（麻酔, 心臓血管）
吉田　卓矢（麻酔）

専門医：

岡田　有理（麻酔）
白川　尚隆（麻酔）
杉野　太亮（麻酔）
坪井　ちづ（麻酔）
西原　侑紀（麻酔）
田中　明子（麻酔）
光井　誠子（麻酔）
阿瀬井　宏佑（麻酔）
中村　友季子（麻酔）
原田　みどり（麻酔）
中山　莉子（麻酔）
原　翔平（麻酔）
井関　将彦（麻酔）
中井　愛理（麻酔）
宮崎　純志（麻酔, 集中治療）
森本　優佳子（麻酔）
南　綾乃（麻酔）
森　梓（麻酔）

志賀　萌（麻酔）
正田　康一郎（麻酔）
上村　圭広（麻酔）
早田　宜史（麻酔）
八代　和也（麻酔）

麻酔科認定病院番号：29
特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している.多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる.また,集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である.

大阪市立総合医療センター

大阪市立総合医療センター
研修実施責任者：山田徳洪
専門研修指導医：
山田　徳洪（麻酔）
池田　慈子（麻酔）
嵐　大輔（麻酔）
上田　真美（麻酔）
岡本　なおみ（麻酔）
小林　晶子（麻酔）
嶋津　和宏（麻酔,集中治療）
四宮　沙里（麻酔,集中治療）
片岡　恵里佳（麻酔）
藤間　凡未（麻酔）
中谷　誠二（麻酔）
中新　恭平（集中治療）

麻酔科認定病院番号：686
特徴：地域基幹病院,大学附属病院と連携し,麻酔診療と集中治療を組み合わせた研修を提供し周術期全般を見渡せる高水準な麻酔科専門医を育成します.

兵庫県立こども病院

研修実施責任者：香川　哲郎
専門研修指導医：香川　哲郎（小児麻酔）

高辻　小枝子（小児麻酔）
大西　広泰（小児麻酔）
宮本　義久（小児麻酔）
上嶋　江利（小児麻酔）
末田　彩（小児麻酔）
藤原　孝志（小児麻酔）
田中　康智（小児麻酔）
上野　真穂（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号　93

特徴：小児・周産期医療専門病院として,一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか,新生児手術,小児開心術,日帰り手術,血管造影等の検査麻酔,病棟での処置麻酔,緊急帝王切開等,一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能.
小児がん拠点病院,地域医療支援病院,小児救急救命センター.

大阪医科薬科大学病院

研修実施責任者：日下裕介

専門研修指導医：南敏明（麻酔，ペインクリニック）
梅垣修（集中治療）
日下裕介（心臓血管麻酔，集中治療）
間嶋望（小児麻酔）
門野紀子（集中治療）
下山雄一郎（集中治療）
中野祥子（小児麻酔）
藤原　淳（心臓血管麻酔）
上野健史（小児麻酔）
長峯達成（心臓血管麻酔）
佐野博昭（ペインクリニック）
北埜学（小児麻酔）
藤澤貴信（心臓血管麻酔）
山崎紘幸（集中治療）
野田祐一（集中治療）
鳥井理那（ペインクリニック）
徳永友里（ペインクリニック）
牧澤佑樹（心臓血管麻酔）
三井寛明（心臓血管麻酔）

三島洋輝（ペインクリニック）
愛甲一樹（ペインクリニック）
金城碧（手術麻酔）
島津愛陽（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：19
特徴：2016 年 3 月より，新中央手術棟（手術室 20 室，集中治療室 16 床）が新設され，麻酔科医局は手術室・集中治療室に隣接しています．当院では，2025 年度，全手術件数 13,325 件，全身麻酔症例 7,669 件の実績があります．豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり，さらに集中治療・ペインクリニックの研修も可能です．また，種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく，学会発表のための Power Point の使い方，統計など）の開催，専門医試験対策，学会発表・論文作成の指導，将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています．ペインクリニック外来は，1966 年，故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで 2 番目に開設され，伝統があります．

<u>亀田総合病院</u>

研修実施責任者：植田 健一
専門研修指導医：植田 健一（麻酔）
吉沼 裕美（麻酔，ペインクリニック）
室内 健志（麻酔）
中澤 遥（麻酔）
林 淑朗（麻酔，集中治療）
河野 宏之（麻酔）
柘植 雅嗣（麻酔）
竹原 由佳（麻酔）
劉 丹（麻酔）
加納 美咲（麻酔，ペインクリニック）
藤井 真理映（麻酔）
荻野 仁史（麻酔）
藤本 萌子（麻酔，ペインクリニック）
植田 咏佐（麻酔）

認定病院番号：367

特徴：千葉県南房総地区において中心的な役割を果たす施設．早くから米国式研修医システ　ムを取り入れ，研修医を育てることを得意とする病院施設である．外科においては，心臓手 術，呼吸器外科，食道外科をはじめとする高度医療から一般外科まで幅広く手術症例があり，年間 1 万例以上の手術件数を誇る．ペインクリニック認定施設でもあり，他に，当院にて集中治療，救急医療のローテーションも可能となっている．集中治療科は，クローズド・システムの内科・外科混合の ICU を管理し，24 時間 365 日シフト制で集中治療専門医の指導のもと診療にあたる．

社会医療法人愛仁会井上病院

研修実施責任者：坂本元

専門研修指導医：坂本元（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）

認定病院番号：1945

特徴：井上病院は透析専門病院である．外科系診療科は，整形外科・血管外科・外科・泌尿器科の 4 科でありこれらの科の手術を受ける透析患者の麻酔がメインとなっている．そのため他施設で全身麻酔を断られるような非常にハイリスク症例（ASA-PS3 や 4）を多数経験でき，「糖尿病性腎症による慢性腎不全（透析歴数十年）で重症大動脈弁狭窄症に高度心機能低下・慢性閉塞性肺疾患・高血圧症・貧血を合併した高齢患者に対する下肢動脈バイパス術」のような最重症患者の術中麻酔管理も学ぶことができる．また，Osaka Metro の江坂駅から徒歩 5 分程度に位置するため，御堂筋線で新大阪や大阪梅田・心斎橋・難波・天王寺へのアクセスも非常に良い．

松本協立病院

研修実施責任者：中本志郎

専門研修指導医：中本志郎（麻酔）

認定病院番号：1969

特徴：循環器外科手術が多くを占める病院のため心臓血管麻酔症例が豊富で経食道エコーなどの心臓麻酔専門医に必要な知識も学べる．また外科手術では循環器や呼吸器疾患や透析患者などの高リスクな患者への対応や硬膜外麻酔や神経ブロックも積極的に行っておりさまざまな術後疼痛管理について研修できる．

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，社会医療法人愛仁会高槻病院麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

社会医療法人愛仁会高槻病院　麻酔科 三宅隆一郎　主任部長
または　事務担当　杉本彩
大阪府高槻市古曾部町1丁目3番13号
TEL 072-681-3801
E-mail t.kensyu@ajk.takatsuki-hp.or.jp
Website http://www.takatsuki.aijinkai.or.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門

研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次ごとの知識･技能･態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡さ

れる.

- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

③　**総括的評価**

- 多種職（指導医・医療スタッフなど）で行う専攻医の評価は，年度ごとに文書で研修プログラム管理委員会に報告し，次年次以降の専攻医への指導の参考とする．
- 研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

①　専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．

- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの専門研修基幹病院である高槻病院・千船病院・明石医療センター・大阪市立総合医療センター・兵庫県立こども病院・亀田総合病院は地域医療支援病院であり，また専門研修連携施設に長野県の松本協立病院がある．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であり，専攻医は，これらの病院において麻酔研修を行うことにより，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時

間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する．